ぎかい

小国町議会だより　第129号

2016.7.15

小国町指定文化財「興学」の掛軸

小国高校所蔵S57・3・31指定

表紙関連記事は12ページ

主な内容

- 28年度補正予算内容
- 一般質問4名登壇
- シリーズ1　若者は今

小国町議会
ホームページ　http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html
e-mail　gikai@town.oguni.yamagata.jp
小国町議会　検索

6月定例会

6月定例会のあらまし

6月定例会が6月6日から9日までの4日間の会期で開催された。

第1日目に、行政報告の後、平成28年度5会計補正予算と財産の取得、部落有財産処分に係る和解を上程した。

一般質問を行い4議員が産業支援、道の駅活性化、空き家対策、人工透析実施について町政をただした。

最終日に、本会議を行い全議案を原案通り可決し、閉会した。

補正予算

農業支援

町内産農産物直売所整備
アスパラ生産灌水設備整備へ補助

町内で広がりを見せるアスパラ生産

一般会計補正予算第3号が全員賛成で可決された。

主な内容としては、横根スキー場リフト落下防止ネット修繕、健康の森横根遊歩道整備、町内農産物の直売所整備に対する補助、アスパラ生産の灌水設備整備に対する補助が予算化された。

繰越明許

繰越明許とは？

歳出予算のうち、予算成立後の事由によって、その年度中に支出の終わらない見込みのものについて、翌年度に繰り越して使用することです。繰越明許費は予算の内容として、議会の議決が必要になります。

前年度に完成しなかった事業を今年度に実施するもので、議会の承認が必要となる。

事務手続きのシステム導入、改修や施設の整備、農業支援に対する補助がある。

道路整備（松岡黒沢峠線）工事や畜舎の整備に対する補助などが繰越になった。

平成27年度から繰越した事業

事業内容	予　算
電算システム更新導入事業	3473万4千円
「小さな拠点」形成促進事業	1242万4千円
山の暮らし伝承創造機構設立準備プログラム	1586万5千円
選挙システム改修事業	26万円
年金生活者等支援臨時福祉給付金支給事業	3878万7千円
児童福祉事務事業	54万円
農業担い手確保・経営強化支援事業	2935万1千円
畜産規模拡大支援事業	1853万1千円
社会資本整備総合交付金事業 町道松岡黒沢峠線道路整備事業	1億2300万円
社会資本整備総合交付金事業 町道雪崩予防柵整備工事	2180万円
合　計	2億9529万2千円

平成28年度 各会計補正予算

会計別	歳入歳出予算	決議の内容
一般会計（第3号）	60億9586万円 （1億2966万円を追加補正）	全員賛成により可決
簡易水道事業特別会計 （第1号）	2193万円 （129万円を追加補正）	全員賛成により可決
下水道事業特別会計 （第1号）	3億8952万円 （141万円を減額補正）	全員賛成により可決
介護保険特別会計 （第1号）	9億4884万円（増減なし）	全員賛成により可決

水道事業会計（第1号）

会　計	収　入	支　出	決議の内容
資本的収支	3億1234万円	4億9470万円 （2138万円を追加補正）	全員賛成により可決

収支不足分は、当年度分消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金及び繰越利益剰余金で補てんする

一般会計補正予算（第3号）の主な事業

元気な6次産業化応援プロジェクト	1666万円
農業基盤整備工事	1540万円
部落有財産整理統一	6100万円
観光修繕	1247万円
体育備品購入	177万円
コミュニティ道路整備事業	158万円
町道補修	300万円

財産取得を可決

1598万円

第3回 臨時会 4月28日

「熊本地震」被災地支援可決
支援物資と見舞金を予算措置

地震による被害を受けた熊本県小国町の要請に応じ当町は、2リットル入りペットボトル飲料水約7800本、非常用給水袋3千袋を届けた。

見舞金は、熊本県と大分県に対し、それぞれ二百万円を寄贈する予算案が提出され、全員賛成で可決した。

一刻も早い復旧が望まれる

●定住は働く場から
●公債費の状況について

伊藤重廣（いとうしげひろ）議員

定住は働く場から

伊藤　ここ数年、産業に変化があり、経営を担う方々が非常に苦労している。町は、企業・産業を担う方々と話し合いを行い、事業が安心して続けられる様に、支援をして来たのか。

町長　農家数は、22年から27年の間で76戸が減少し、４４０戸となった。商業については、小国ポイント会加盟店の売上げが対前年比94％となった。今後とも支援策を講じて行く必要があると考える。

　町としては、企業、産業を担う方々との話し合いと情報共有に努め、環境と状況に応じた対応と支援を行ってきた。新規就農支援策としては、国の要件を緩和して町独自の創農チャレンジ給付金などを講じている。

伊藤　商業、企業、農業、それらに対する支援とその効果は。

産業振興課長　小国いきいき街づくり公社へ、商店街区機能形成事業補助金と施設維持管理費、交流空間の支援として、合わせて４４００万円を、商工会へは、運営補助金４００万円を支援している。

　町の中核企業には、工業用水道利用確保助成金３０００万円を支出し、平成24年度には、勤労者住宅整備事業ということで、立体駐車場等の購入で6億３５００万円の事業を行った。

　農業については、多面的機能支払事業として４０００万円～４５００万円を支援している。農業体質強化基盤整備事業としても、３８００万円を支援している。

　事業計画等については、町に事業を行う申し出のあった組織に対して継続して事業を円滑に、そして効果が出る様に、しっかりとサポートを実施している。

伊藤　農業は、生産の場だけでなく、住環境を保全していくという役割も担っている。集落を維持するという事に大きく係わっている。農家が収入を得れば、買物をして商業者にもお金が回る。長い間、それを繰り返して来た。

　平成24年には、町長の英断で6億３５００万円規模の雇用の場の確保がなされた。農業も、今、非常にピンチであり、高齢化している。地域を守るため、英断をもって支援策を講じ、農業者と町が一体となって郷土保全を行うべきだ。

町長　生産基盤だけでなく、環境保全・国土保全の面からも農業振興について支援する。農業は、基幹産業だと思っている。農業関連については、前年対比で29・6％の増額をしている。しっかりと成長・発展するような支援をしていきたい。

公債費の状況について

増える耕作放棄地

伊藤　町債残高は約88億円。最近になって増えたのか。また、企業対応全体としての6億３５００万円については、その関係者から「現在の町政運営のままでは、小国町の将来に大きな疑問と不安を感じる。」との声が聞こえるが、町と企業の充分なタイアップはなされているのか。

町長　公債費残高の24・25年度の増加は、主に小国小学校の改築に伴う過疎債等によるものだった。小国小学校の改築に伴う元金償還は29年度から始まり、35年度にピークを迎える。

伊藤　中核企業への支援とした6億３５００万円は良い判断だったと評価をしたいが、町民一人当たりにすれば約8万円程度の額で、うち借金の分はどのように返すことになるのか。

企画財政主幹　勤労者住宅の整備に係る町債は一般単独の町債で、元金が4億７６００万円で20年返済となっている。

　借入金を町民８０００人で割ると、一人当り約6万円の負担となる。

町長　企業支援というのは、支援する側と支援される側が、しっかり意見交換をして行くべきものと考えている。

今後の「道の駅」の活性化構想は

小関和好（こせきかずよし）議員

小国の「道の駅」は、山形の玄関口としては恥ずかしくないか

小関　各自治体で「道の駅」が新設されたりリニューアルされている昨今である。

　また、県でも「観光山形」をうたい観光に力を入れている中、山形の玄関口でもある当町の「道の駅」の状況を町長は、どのように考えているのか。

　現在の状況でも小国町で一番の集客能力がある場所であるが、まだまだ集客増が見込め雇用が生まれる場所である。

　先日は、県知事にも来ていただいたと聞くが、是非山形県の玄関口にふさわしい「道の駅」にしていただけるよう働きかけてもらいたい。

　併せて町長の具体的な活性化構想を聞きたい。

整備手法・財源計画等の調整を図り実効性の伴う方策を検討する

町長　「道の駅」は、地域活性化の拠点として全国に1913箇所が登録されている。

　山形県では、平成28年3月に「やまがた道の駅ビジョン2020」を策定し、東京オリンピックが開催される2020年代初頭を目標に、現在の18駅から30駅程度に増やすと共に機能の充実・防災など新たな機能を加え、道の駅の機能を高めていく事としている。

　本町の道の駅は、当初から道の駅としての整備機構に基づいた施設ではなかったので、現在求められている道の駅の機能を確保するには問題があるものと考えている。

　また、各施設とも整備から30年近くを経過し、経年劣化等による施設の老朽化が著しい状況になっており、入れ込み客の増加を図るには、大きな問題である。

　現時点にあっては、指定管理者の管理状況を把握し当面の課題に的確に対応し、施設の効果的な活用が図られるよう、指導・助言を行うと共に施設修繕を行い機能の維持に努めていく。

　道の駅としての整備、機能の確保に向けた方策としては、「道の駅連絡会議」への参加などにより情報収集を行う。将来的なビジョン策定に向けては、役場内に検討会議を設置して整備手法・財源計画の調整を図り、実効性の伴う方策を検討する事としている。

小関　2020年までは、あと4年となっているが具体的にどのような整備を行うつもりなのか。

町長　先日、県知事がいらした際にも整備改修等に関する財源のお願いをしている。

　出来る限りの整備を行っていく。また、高規格道路の計画と併せて総合的な計画を考えている。

小関　3月議会でトイレの臭いと清掃に関して質問したが、その後の経過はどうなっているか。

産業振興課長　トイレの臭気に関しては、石楠花まつりまでにふたを交換するなど応急的な対策をとっている。

　清掃に関しても指導を行っているが、天井等のクモの巣などの対策は、これから行う。

小関　指定管理者とは、定期的に打ち合わせをするということだったがどれくらいの頻度で行っているか。

産業振興課長　月に一度の打ち合わせとなっているが、店長との実務的な打ち合わせであるので、経営者等と今後の運営に関しても話し合いを持つ時期に来ていると考えている。

その他の質問

町内の景気動向とその支援に関して

長井市で建設中の道の駅

●空き家対策について
●「きのこ産業づくり推進事業」について

間宮尚江（まみやひさえ）議員

空き家対策は急務ではないか

間宮　国の空き家関連の特別措置法が制定され、２０１５年度には県でも「県空き家対策連絡協議会」が発足された。県が主導的に全市町村や民間を巻き込んだ取り組みが全国的にも珍しいと期待され、その後各自治体では急務で協議会発足が進んでいる。

　単に空き家の賃貸、売却にとどまらず、一人暮らしの高齢者にとっては将来の存続、管理問題でもあり、また積雪等による倒壊危険家屋の増加は防災問題、環境景観破壊となり、社会問題とも関連してくる。２０１５年２月19日夜間発生した沼沢地区の家屋倒壊は全国的にも報道されたこととして、記憶に新しい。本町での空き家対策、利活用の施策を伺いたい。

町長　本町でも平成25年度の調査では86軒の空き家、11軒の倒壊危険家屋が確認されている。今年度は有識者等で構成する協議会を設置し、整備について検討を進める。利活用施策としては、住宅支援事業において、空き家を活用した取り組みに対し助成の上乗せをすることとし、今年度新たな制度展開をする。

間宮　平成25年1月には、民間業者の方が空き家調査を行い、町長と面談もしている。そのデータにも示されている通り、今後は空き家予備軍にも問題意識を持たなければいけない時にきている。特措置法第11条にあるように、データベースの整備等に努め、今後確実に町内における大きな課題になるであろう空き家対策について、真剣に向かいあっていただきたい。

　更に、国交省が一元化する動きにするとしている、現在、全国市町村の70％近くが開設している「空き家バンク」の本町開設も期待したい。

「きのこ産業づくり推進事業」の状況は

間宮　２０１６年度、主な事業として当初予算５２１９万円を計上しているこの事業が、国、県の補助金が見込めない状況と聞いているが、その経緯と今後の施策を伺いたい。

町長　林野庁所管の国庫補助金３０５５万円、町の支援２１３０万円を見込み事業支援を国に申請したところ、４月19日、交付金事業が採択とならなかった。

　今後は、県単独事業の「山形県元気なトップランナー育成プロジェクト事業」の申請、総務省所管する「地域経済循環創造事業交付金事業」の申請手続きを提出したので、７月に判明する予定である。

　町としては、本年度での事業実施に向けて国、県等からの財源確保に尽力していきたい。

間宮　事業主体者は「後継者育成、雇用創出」という理念のもと、３月には法人化までしている。町長の施政方針でもある自らがトップセールスとして知名度アップに努めると掲げている以上、国への陳情はお考えにならなかったのか。４月19日内示を受けて、５月17日から19日には、国会議員、中央省庁あいさつで東京に行っているではないか。

町長　あいさつ回りという公務であり、陳情とは別であると考えている。

間宮　２０１５年３月予算総括質疑の答弁に始まり、再三町長は「きのこ産業」が本町の６次産業化推進の起爆剤になると言ってきている。更には、２０１５年12月議会では「県との信頼関係を活用して、６次産業を推進していく」と答弁している。目玉事業としてこの「きのこ産業づくり推進事業」に予算を計上した以上、是非とも事業主体者たちの志を実現していただけるよう、強く期待したい。

期待される「きのこ産業づくり推進事業」

「人工透析」情報を公開し町民の納得が必要

小林（こばやし）　嘉（よしみ）議員

医師派遣を明確に

小林　3月議会では、その実現に向けた諸課題に係わる条件が整った等と、あいまいな答弁に終始している。医師確保問題は、平成26年度から混迷している大きな問題であるので、明解な答弁を聞きたい。

来年早い時期から

町長　年内に機器の整備を行い、平成29年の早い時期から開始すべく準備を進めている。派遣期間は明確になったのかとの質問だが、山大第一内科より専門医を派遣いただき開始する。

治療中の救急対応は

小林　透析治療中の容態急変時、患者の安心安全は確保されるのか、3月議会では迷走答弁を繰り返し、最終的には医療現場の問題に答弁は差し控えるとのことで明解な答弁が無かった。患者の安心安全は確保されるのか。

議会議論になじまない

町長　派遣される専門医のもとで治療を実施している場合の急変時は、その医師の判断に拠って対処されるものと思う。医療という極めて専門性の高い医療現場での処置・対応については議会での議論になじまない。

　安心・安全には最大限の努力を期すよう要請していく。

町立病院での希望者は

小林　決議後でなければ確認できないとした患者個々人の意向を把握したのか。

　維持透析可能な患者の人員数は確認しているのか聞きたい。

即、希望の方は14名

町長　患者24名に個別に聞き取りの結果、町立病院での透析希望は14名、現在の医療機関で継続希望は3名、このほか7名は体制が整った段階で転院したいとの意向、この7名を含め21名となり、9割近くの方々が希望している。また、現在治療しているほとんどの方は維持透析に該当する。

年々負担増の病院経営

小林　病院会計への年度当初の一般会計負担金が年々増加している。平成25年度約2億5千万円が今年度予算は約3億3千万円、加えて、病院会計の現金保有額が1億円減少の予算である。昨年度比、約1億3千万円の負担増になる。経営の効率化をはかり、町財政の身の丈に合った経営を指向すべき。

　全国のモデルになっている「地域包括ケアシステム」の崩壊が心配である。

　昨年の国民健康保険の人工透析に係る年間医療費総額は一人当たり約5百万円の実績数値である。導入予定の機器3台の最大治療人員は12名、医業収入は年間6千万円、医業支出は年間7千万円（医師一名、看護師2名、技士1名の人件費、諸材料費、減価償却費）、年間1千万円の赤字の計算になる。20人治療の場合の計算根拠を公開のうえ、納得できる議論が必要である。

経営の効率化に努める

町長　病院は町民の命と健康を守る砦として運営してきた。透析治療開始による病院経営への影響は、20人程度の透析治療で年間4千万円程度の黒字になる見通しである。

　町は、保健・医療・福祉・介護サービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築に向け全体で取り組んでおり、病院はその中核の役割を果たしている。今後とも、地域医療の担い手として経営の効率化に鋭意努めていく。

透析機器が設置されるリハビリ棟

ピックアップ

米沢市議会議場
（米沢市）
西置賜消防本部
（長井市）

置賜広域行政事務組合議会とは？

本町からも燃却ゴミが運ばれる
（高畠千代田クリーンセンター）

■構成市町
置賜3市5町

■担当議員
高野　健人
安部　春美
遠藤　和彦

■主な所管業務・施設
- **東置賜各消防署**
- **千代田クリーンセンター**
- **湯るっと**
  ※この施設は千代田クリーンセンターでゴミを燃やして発電した電気により運営している環境にやさしい施設です
- **養護老人ホーム**
  南陽やすらぎ荘

■予算は？（小国町負担金）**5554万円**
組合費・電算共同処理事業費・衛生費
農林水産業費

議会定例会
11月　決算認定
2月　予算審議

臨時会
5月・12月・3月

平成27年度

構　成

第１委員会：総務関係
第２委員会：情報・消防関係
第３委員会：ゴミ処理関係

千代田クリーンセンターに隣接する2つの施設

湯るっと

パークゴルフ場

特集 議員活動

西置賜行政組合議会とは？

■担当議員

今　　康成（議会運営委員）
石山久美子（監査委員）※毎月25日定例監査
間宮　尚江

■構成市町

●長井市・白鷹町・飯豊町・小国町

■所管業務・施設

●西置賜広域消防
●養護老人ホーム「おいたま荘」

■予算は？（小国町負担金）

平成28年度一般会計予算 **2億2044万円** 民生費・消防費

議会定例会

10月 決算認定
3月 予算審議

臨時会 施設視察

5月・8月・12月

平成27年度

10月　平成27年度一般会計補正予算質疑
今　康成
消防小国分署
除雪ローダー
修繕について

10月　定例会一般質問 **間宮尚江**
「おいたま荘」における
入所者の状態像の変化と
今後の将来像について

3月　定例会一般質問
間宮尚江
災害時の
同行避難について

平成28年度2大事業

消防署白鷹分署庁舎建設
消防署飯豊分署庁舎建設

養護老人ホーム おいたま荘（今泉）

特集 シリーズ1 若者は今

若者が活躍する町づくり

広報委員会では、
5月25日（水）総合センターで
「若者が活躍する町づくり」
と題して討論会をおこないました。
小国の若者が何を考え
何をしているのかを知り、
今後の町づくりの参考にしながら
次世代の人材の育成に
繋げる事を目的としたものです。

Q 今思っている事、言いたい事は？

Dさん 勤め先があるのに働ける年代の人が残っていない。このままいけば、自営業はやっていけない。

Aさん 小国の賃金は、安すぎるんじゃないか。

Fさん 進学して勉強しても、それを活かせる就職先が無い。

Cさん 帰ってこない人は、小国が嫌なんじゃなくて田舎者のイメージが嫌なんじゃないの。

Dさん 小国町は、閉鎖的。他所の家が良く解るので近所の評判や他人の事を気にしながら生きて行かなければならない。プライバシーが無い。

Q 雪に対してどう思うか？

Fさん 小玉川の大きなかまくらや、スキー場のハーフパイプ等、雪を生かした何かはきっと出来るはずだと思う。除雪の手間を除けばそんなに悪いもんではないと思う。

Bさん 無いに越したことはない。

Cさん 無いに越したことはないが、雪を見に来る人がいるのも事実。観光の武器にはなりうると思う。

Eさん 客商売から言うと無い方がいい。

Dさん 私も客商売だけど小国町は雪で経済が回っているので降らないと困る人もいる。

Aさん 雪が降ると何処へも行きたくなくなる。

Dさん 中津川に移住してくるのに何故小国町に来ないのか。何か理由があるはず。

雪には外から人を呼ぶ魅力もあると思うので、そこは考えるべき。

Q 小国から出た事の無い人は？

Fさん 進学も考えたが事情があって今に至るが、昨年一年間、いろんな人とのかかわりの中で自分の考えも変わった気がする。

Bさん 自分は、高校は町外、大学は、県外だったけど、戻ってきたくなりました。外の生活を経験したほうが戻ってきたくなるような気がする。

Eさん 米沢の高校を出て何となく小国に帰ってきました。小国が好きというか、肌が合うような気がします。やりたい仕事もしているし、やりたい事を見つければ小国も楽しめると思う。

Q 休日の過ごし方は？

Aさん 体協や消防、村の行事でほとんど潰れる。希望を言えば、小国でライブイベントをして欲しい。

Dさん 定休日が無いので仕事が中心です。たまに休んで釣りに行くくらいです。

Eさん 休みがあまりないので月に一回ぐらい梅花皮荘で温泉に入ります。

Cさん 社会人の野球チームに入って試合をしています。あとは、友達と米沢や新潟で遊んでいます。

Bさん 社会人のサッカーチームの試合に出ています。あとは、同級生で新潟方面で映画を見たり娯楽施設に行ったりしています。

Fさん ずーっと家にいる日もあれば、車で1人で出かけたりします。アスモのカラオケには、結構行っていたので無くなったのはショックです。

Eさん 土日は、小国町に人がいないんだけどやっぱりみんな町外に行くんですね。土日も小国で過ごしてもらえる町づくりをしてもらいたいです。

Q 今後の夢や計画を聞かせて？

Eさん 今は、来年の10周年イベントで500人突破が目標です。

老後は、考えると不安になります。

Dさん 結婚前に起業したので休みも無く出会いも無いです。でも結婚もしたいし、老後も心配です。

Aさん 結婚したくない訳ではないが、やっぱり出会いの場が無い。交流の場も無い。でも出会いたいと言う人は結構いてそういう人たちは、結構受け身の人が多くて自分からは、出てこれない。かと言って盛大に出会いの場を計画しても出てこれない。いろんな場所を設けたり作ったりする事から始めてあげると良いと思います。

Fさん 年齢のせいか年金とかは、まだ考えられなくて、今やれる事をやろうぐらいの感じです。でも、今ホントに自由に集まれる場や気軽に集まれる場が必要なんだなと思います。

Bさん 普通に結婚して子供も作って、大きくなったらサッカーとか教えたりしてぐらいです。やっぱり芝のグランドくらいは欲しいですね。

Cさん 明日することぐらいしか頭にないです。

オブザーバーから

各地区に青年団という団体があって色々な活動を行っていた時代がありました。

地域に若者がいなくなり解散しましたが、その後町内を中心に「面白い森」という集団が出来ていろんな活動をしてきました。

そして今は、「コネクト」と繋がれてきて、やっぱり作っていくという事が重要だと思います。

そして、情報を発信して輪を広げる事が必要だと改めて感じています。

参加者より
「今までこんな事を言える場所は
無かったので良かった。
また、やって下さい。」
と言っていただきました。
今後も開催していく予定です。

おらもおぐに町民

町の人からちょっとひとこと

プロフィール
氏名 河内（かわうち） 昭佐（しょうすけ）
経歴 元小国高等学校校長
年齢 72歳
住所 小国町緑町

小国高校の中庭に植え込まれている「平和」のことについて、その思いと経緯についてお話ししたいと思います。

昭和25年度入学の農業科の皆さんが母校へ残す記念にと植え込みをしたことがわかりました。その方々は戦前に生まれ少年時代を戦争で明け暮れたことで、平和についての強い思いがあり、後世まで残るものは何かとクラスで話合いを重ね「平和」の文字を植え込み校舎の前庭に残すことにしたとのことでした。

植え込みに使用した樹木は小国では通称「やどめ」とよばれ、正式には「ハイイヌツゲ」のことです。4キロ以上離れた学校林から掘り起こしリヤカーで何回も運び卒業を同じくする家庭科の生徒と一緒に植えつけ卒業記念の一つとして完成させたものです。

現在の校舎に改築する際、それまで使用していた校舎や前庭が全て整地の対象となることから、そのままでは無くなってしまいます。職員で構成されていた「校舎改築委員会」で前庭の植え込みの中から「移植してでも残したいものは何か」との議論の結果、先輩が残してくれたこの「平和」の植え込みを小国高校のシンボルとして残すことになり、前庭から中庭に移植したものです。

当時の植え込みは現在の植え込みより小さなものでありましたが、現在の中庭に移植する際、一部が枯れてしまったため補植したことで現在の大きさになったものです。

この「平和」の植え込みは今の日本の現状を考えたとき、今後とも末永く大切に育てていくことこそ後世への贈り物として大事なことではないでしょうか。

小国小学校・小国中学校・小国高校と設置者は違っても、いずれの校歌にも「平和」の一節があり、感慨もひとしおです。世の中の平和を願い植え込みを作った先輩の思いを引き継ぎ卒業生を送り出している高校がこの町にあることを私は誇りに思います。

◇表紙に寄せて
小国町には数多くの町指定の文化財があります。
議会広報では今月号より紹介してまいります。
「興学」の掛け軸は米沢藩の藩主であった上杉鷹山公直筆によるものです。
小国高等学校職員玄関入口に掲げられています。

次の定例会は9月です。ぜひ傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。
議会事務局（62）2448

編集後記

東北大震災から5年が過ぎ、今度は熊本地震です。被災地の人たちには心よりお見舞いを申し上げます。

これだけ各地で災害が起こると大雪なんかでくるといていられないとあちこちで聞こえてきます。昨年は、その雪さえもわずかしか降らず小国町は、水不足であります。

災害は、忘れないうちに来るようになりました。皆さん用心いたしましょう。

梅雨に入り暑くなったり寒くなったりして、体調管理が難しい季節です。風邪などひかぬようご自愛ください。

小関（記）

発行責任者
議長 高野 健人
議会広報特別委員会
委員長 小関 和好
副委員長 今 康成
委員 石山久美子
委員 間宮 尚江

小国町議会だより 平成28年7月15日発行 発行 山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町二丁目70番地小国町議会 編集 議会広報特別委員会 ☎0238-62-2448 印刷 (有)加藤印刷 ☎0238-62-2259